

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700027
法人名	社会福祉法人 智光会
事業所名	グループホーム 愛の里
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永2371番地 (電話) 0995-74-1488
自己評価作成日	平成28年12月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成29年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑が広がるのどかな農村地帯の一角に、特別養護老人ホームと併設してグループホーム愛の里があり、リビングからは遠く霧島の山々を望むことが出来る自然豊かな所です。私達スタッフは、利用者様一人ひとりの生活スタイルに合わせて自分のペースで過ごすことが出来、やりたい事を自信を持って出来るように、さりげなくサポートするように努めています。スタッフ・利用者同士の信頼関係を築けるように日々努力しています。電話で日常生活の様子や状態を報告したり、面会時には御家族とも時間の許す限り話をする機会を設け、スタッフと家族が連携を図りながら支援できるように努めています。地域との交流については、近所にある小学校・校区の運動会に参加したり、小・中学生の慰問があり児童との触れ合いを大切にしています。また、町の夏祭りや催し物へ出かけて、地域の方々との交流に努めています。季節ごとには、四季を肌で感じて頂けるよう外出支援をしています。食事については、利用者様の食べたい物を聞きながら献立を立てたり、季節の食物を使った献立作りに努めています。健康面については日頃の健康管理と毎月主治医の定期受診、協力医療機関は認知疾患医療センターとしての指定を受けており、専門医との連携に努めています。又、異常時には早期対応が出来るように隣接する特養の看護師との連携にも努めています。御家族や利用者様が安心して、楽しい日々を送れる様に支援していきたいと想います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、特別養護老人ホームに隣接しデイサービスの利用者との日々の交流や施設間の協力体制が構築されている。遠くには霧島連山を眺め自然豊かな環境にある。母体は医療機関であり緊急時の対応や重度化など医療連携が図れている。日々、回廊式の廊下では利用者が食後に歩行し運動するのが日課である。建物内は明るく、浴室前のソファは利用者の語らいの場所にもなっている。
- 「敬愛・生きがい・和」というホームの理念は、言葉使いや態度、本人の思いが実現するようお手伝いし、穏やかな気持ちで過ごせることを目指している。開設以来、年度目標を立てているが、今年度は、認知症への理解や職員のケアの統一性を図り居心地の良い住まいの実現、外出支援や地域行事への参加の機会を図り、日常生活の充実や刺激ある生活の実現に向けて楽しみのある生活が送れるよう支援に取り組んでいる。
- ホームは、自治会に加入しているわけではないが、準自治会員扱いを受けており、児童ボランティアとの交流活動や地域の敬老会、小学校の学習発表会、運動会などに積極的に参加している。また、隣接した特別養護老人ホームや併設のデイサービスを利用されている地域の方々との交流したり、喫茶店の雰囲気を楽しむことができるよう取り組んでいる。
- 消防設備自主訓練を3ヶ月に1回実施、防災訓練は年2回実施している。また、地域とは、「防災に関する覚書」を取り交わし協力体制が構築されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念と愛の里の理念を作成。目に付く場所に提示し、ミーティングでは理念をもとに話し合いケアの統一を図っている。	「敬愛・生きがい・和」というホームの理念は、職員全員の話し合いで考えられたものである。毎朝、申し送りの際に理念に触れ、1日の業務を遂行するよう意思統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する特養の入居者やデイサービス利用の方が立ち寄られたり、近くにある小学校や町内の行事に参加している。スーパー等出掛けの際、知人と会えば話をする機会がある。	自治会には加入してはいないが、地域の敬老会や高原祭りの見学、児童のボランティアが来訪したり、夏キャンプ、福祉体験学習の中学生受入れをしている。また、小学校の校長や区長から入学式、卒業式、音楽会への出席の案内があり参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して、事業所の状況や認知症についての話を行っている。福祉体験学習、認知症実践者研修の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告し改善点等意見を貰っている。目標達成計画、経過報告を行っている。スタッフには議事録を見て貰い、会議で出た意見はミーティングで報告している。	家族は、2年ごとに輪番で出席しており、家族会、父母の会、敬老会やクリスマス会、避難訓練などと同時に開催している。また、利用者、家族、職員と一緒に食事をともにするなどして絆を深めている。議事録は、家族会の時に配布し説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室が出た場合は、福祉課や地域包括センターへ相談したり、行政からも入所申し込み等の相談を受けている。運営推進会議でも現状報告を行っている。	福祉事務所担当職員の毎月の訪問があったり、町や地域包括支援センターとの連携もあり、研修会への案内や指導、アドバイスなどを頂き相互に緊密な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルの作成、勉強会を実施しスタッフの共有認識を図っている。日中は施錠せず、自由に外へ出る事が出来るため、見守りに努めている。特養と合同で身体拘束廃止委員会を開催している。	法人の安全管理対策委員会に所属し、会議に参加して各部署ごとの実情を踏まえた上で、マニュアルの整備や高齢者の権利擁護、身体拘束の弊害などについて研修がおこなわれている。特にスピーチロックについては、ミーティングなどで繰り返し話し合い理解を深めて安全で自由な暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で学ぶ機会を持ち理解浸透を図っている。ミーティング等で不適切なケアが行われていないか振り返りをしている。気付いた時には注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者なし。研修等に参加し理解を深めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約、改訂時には文書にて細かく説明を行い同意を頂いている。状態の変化による解約時には、その後の対応も含めて、本人・ご家族が納得出来るように話し合いを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、面会時にはご家族へ意見や要望等ないか尋ね話しやすい環境づくりに努めている。出された意見や要望については職員間で話し合い対応している。意見箱の設置も行っている。	解決を図った利用者同士のトラブルや、居室の変更については、両家族に十分に説明をした後、必要な対応について話し合い、ホーム便りなどで報告している。意見箱の活用はないので、意見が出しやすい関係性作りや雰囲気作りに努めている。家族からは、外出の頻度を増やして欲しいという要望があったが、利用者の体調不良もあり計画通りにいかなかった事案もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開催している。管理者は職員の意見に耳を傾け、利用者の処遇について助言や、運営に関しても職員の意見を取り入れている。職員の様子に注意しながら声掛けを行っている。	管理者は職員と随時面談をして意見や提案を聞くようにしており、ハード面の改善についても積極的に意見を出して職場環境を改善したり、業務が遂行しやすいように申し送りノートを活用して意見を出して月1回のミーティングで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員が悩み等相談しやすい環境を整えている。資格取得に向けての励ましや支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>愛の里独自の勉強会を毎月開催し、全スタッフが講義できる機会を作っている。特養との合同研修会には多数の職員が参加できるように配慮している。参加出来ない場合には資料を見て貰っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会を通じて交流を持ち、電話での情報交換等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学や面談を行い本人の心身の状態把握や不安な事、求めている事を理解し、安心して入所できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている事や困っている事を良く聞き理解した上でどのような対応が出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・ご家族の思いや状況を確認した上で必要とするサービスに繋げられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者と職員とが「ありがとう」とお互い言える関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に日頃の状態を報告し、問題に直面した時には家族と一緒に対応方法を考えている。また、不安定な時には家族に面会をお願いしたり、一緒に過ごす時間を作っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や贈り物のやりとり、家族との外出・外泊時には知人に会われている。馴染みの理髪店や墓参りの支援を行っている。	正月に外泊される方や定期的に外泊される方がおられる。知人や家族の面会も多く、ゆっくりと歓談していただけるよう工夫している。職員は、入浴前に髪染めをして差し上げたり、自宅訪問、電話の取次ぎ、手紙の代読などして地域との関わりや人間関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が居室や廊下で一緒に過ごせる環境づくりをしている。家事やレク活動は、利用者同士が声を掛け合いながら円滑な関係が保てるように見守りを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、利用者と一緒に遊びに行ったりしている。入院等で退所された際にはお見舞いや、亡くなられた時には焼香を行っている。退所後も家族の相談を受けたり、関係性を大切にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や困っている事を聞いたり、言葉や表情などから読み取り、職員間で話し合い対応している。職員だけでは対応出来ない事はご家族と検討している。	本人らしくあるために、本人の好きなことをして過ごしていただいている。一人ひとり個別にしたいことなど聞き取ったり、申し送りノートを活用して本人の思いを職員全員が家族とともに共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族にバックグラウンドシートを記入して頂いたり、本人からの聞き取りも行っている。本人やご家族と話す事で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの変化等個別記録に残し、生活のリズムを把握している。情報の共有化を図る為に、申し送りノートの活用、ミーティングで話し合い確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスを開き、利用者の状態について職員で周知し、介護計画を作成している。ご家族や主治医からの情報や助言も踏まえて検討している。モニタリングを行い、状態に応じて介護計画の見直しを行っている。	「計画・実行記録表」があり、毎月の評価をシートにまとめて総合評価を実施するなど行動指標サイクルが図られている。本人の希望に寄り添った個別の外出支援や地域行事への参加を通じて地域と関わりながら個人の目標が達成できるよう介護計画が作成され見直しにも柔軟に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、総合チェック（バイタル・食事・排泄等）表を作成・記入し、申し送り時に報告行い情報の共有に努めている。月末にはケアプランの評価を行いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の希望に応じて外出や外泊、体調不良時の付き添い宿泊等、臨機応変に対応している。基本は町外の受診は御家族の協力を頂いているが、状況に応じては付き添い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議では愛の里の現状報告をしたり、防火訓練時は消防の方の協力を頂いている。近隣の図書館の活用、学校行事の参加、ボランティア、小・中学生の慰問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を支援しながら、医師との情報交換を行い、状態に応じた支援を行っている。御家族と受診される際は状態報告し、受診後は結果を聞き記録に残している。	母体の医療機関が主治医であり、職員が外来受診を支援している。他科受診などは家族に依頼するが、症状や普段の状態を詳細に説明した上で受診をお願いしている。また、誤薬がないよう職員が二人対応し、薬剤師とも連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師にその日の状態を申し送りしている。日中・夜間を問わず急変した場合、状態報告・相談し助言や指示等対応して貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の状態に応じた、十分な治療と入院が出来るよう医療機関との情報交換を行っている。入院した際は定期的に医師や看護師との情報交換、御家族からの状態報告、面会等を行い心身のダメージを軽減出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当する方はおられないが、面会時等に本人や御家族の意向は確認し記録に残している。重度化や終末期に向けた方針を作成し、事業所で対応し得る最大のケアについては説明を行っている。	「看取りに関する指針」があり、契約時に利用者、家族に説明をおこなっているが、医療が必要になった場合などは、医療機関、また、施設などを紹介し適切なケアが受けられるよう取り組んでいる。ホームは、看取りの体制がないため、指針の見直しを検討する予定である。	重度した場合の対応のあり方を明確にし、早期から段階ごとに利用者、家族、主治医、関係者間の意向を確認しながら、対応方針の共有を図ることや内容の見直しを検討されることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や避難訓練を活用し訓練を行っている。夜勤時の緊急対応については、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は利用者の参加、避難誘導、初期消火、通報訓練を年2回実施している。スプリンクラーの設置。地域の消防団への協力体制を整えている。災害時の非常食や毛布などを準備している。</p>	<p>年2回防災訓練を実施、地域とは、「防災に関する覚書書」を取り交わし協力関係が構築されている。設備自主点検を3ヶ月に1回実施し、避難経路の確認や、備蓄リストをチェックし、宿直室に水や医療品、衛生用品、防寒具などの備蓄がある。洗面所やトイレは井戸水が使用できる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛け、対応に配慮し職員間で気付いた時にはお互い注意するようにしている。ミーティングでは問題を投げかけ、声掛けの仕方や対応について話合っている。	接遇マナーをテーマにした、グループホーム連絡協議会の研修会に参加して知識を深めている。職員は、意識して言葉を発するよう心がけており、常に感謝の気持ちを忘れずお互いに、「ありがとう」の言葉を重ねている。扉を開ける時は、ノックしてから入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服選びや入浴、外出、レク活動参加等利用者の意思確認を行い対応、支援している。表情や行動、反応を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に合わせた支援に心掛けている。外出等本人の希望時に出来る限り支援出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日の衣服については一緒に選んだり、髪染め等本人の意向を聞いている。化粧品やクリーム等希望の品物を準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や片付けと一緒に رفتったり、嗜好を聞いて代替品を用意している。畑で収穫した野菜を食事に提供する事で話題作りにもなり、楽しく食事が出来る雰囲気作りに努めている。	担当職員が、利用者のリクエストを聞きながら1ヶ月分の献立を作成、下ごしらえや料理をよそったり、下膳やお盆拭きを手伝って下さる方がおられる。個々専用の箸、湯のみを使用している。菜園もあり、お菓子作り、金柑漬けなど手作り感を楽しんでいる。また、喫茶店の雰囲気を感じたり食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は残食量から把握している。水分量についても把握し少ない方には声掛けし水分摂取量のチェックを行う。水分制限のある方のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛け、確認をし誤嚥防止に努めている。義歯消毒は一人ひとりの義歯の状態を見て消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや失禁状態に応じて、トイレ誘導の時間、リハビリパンツ・パット類を本人に合わせて検討している。状態によっては布パンツへの変更等検討している。	さりげなく声かけしトイレで排泄ができるよう誘導している。布の下着の方もおられたり、夜間はポータブルトイレを併用される方がある。乳製品を積極的に取り入れ腸内細菌を増やし便通が整えられるよう支援しているが、内服薬を併用し排便コントロールをされる方もある。利用者は、回廊式廊下の食後散歩も大切な体調管理と考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、乳製品の提供、運動等支援し、便秘については予防しているが、状態に応じては緩下剤を服用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や高齢ということも考慮しながら支援行っている。希望があればいつでも入浴出来る体制である。断られた時には時間をおいて声を掛けたり、翌日に支援。	入浴の順番は公平に決めている。毎日、入浴される方もあり、本人の希望や体調、安全面などを考慮し、不安感を受け止めプライバシーに配慮してゆっくりと入浴していただけるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事やレク活動を促したり、散歩・日光浴を取り入れ体内リズムを整えるようにしている。眠れない時は眠くなるまで側で見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事説明書で内服薬の把握をし、変更時は記録、申し送りノートへ記載している。服薬時は職員2名で行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来ない事、得意・不得意な事を理解した上で家事や裁縫等お願いしている。買い物や地域行事への参加を行い、楽しみや気晴らしへの支援行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事計画を立てて出掛けている。利用者の状態を見ながらドライブや外食、散歩等行っている。墓参りや買い物等利用者の希望に応じて御家族と協力しながら行っている。	毎日、隣接の施設に職員と一緒に日誌を提出に行くことを日課にしておられる利用者もおられる。年間行事計画に季節ごとに外出を楽しんでもらえるよう計画・実施している。また、地域の交流行事に積極的に参加するなど、利用者の健康状態や天候を見ながら、外食したり関連施設に出かけて交流している。菜園では季節ごとに野菜を栽培し成長を見守り、利用者と一緒に収穫して食卓を囲んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分で管理されている方は買い物時支払いをされたり、依頼された時は財布から支払われる方もいる。管理の難しい方は御家族の希望により預かっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>要望時や贈り物が届いた際には電話を掛けたり、取次ぎの支援を行っている。話す場所の環境に配慮している。年賀状を書かれた際は出して差し上げている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は家から持って来られた物や作品を飾りその人らしい部屋作りに努めている。廊下の壁にも作品や写真を飾り、利用者同士の話題作りにも努めている。玄関ロビーや廊下にはソファを設け気の合う人同士が集まってお茶を飲みながら談笑できる空間作りに努めている。</p>	<p>リビングに面して台所があり、こじんまりとしたアットホームな空間である。テーブルの上の鉢の中で金魚、メダカが元気に泳いでいる。居室を取り巻くよう回廊式になっており、浴室前に長いすが置いてあり利用者が思い思いに過ごしている。廊下の壁面には、思い出の写真や花の写真、ちぎり絵が掲示してあり、玄関には季節の生花が活けてある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファや椅子を設置し、1人で新聞を読まれたり、他者と談笑や音楽を聞いたり過ごせる空間作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの家具や仏壇、テレビを持って来られている方や御家族の写真、植物を飾りその人なりの好みに合わせた居心地の良い環境の中で過ごせるように配慮している。</p>	<p>和室が2部屋あり、段差は手すりやベットの上手く活用して移動の安全性を確保している。また、扉は引き戸で暖簾を掛けている方もあり、保冷庫や冷蔵庫、仏像など馴染みの物を持ち込み暮らしやすく工夫している。パッチワークのベッドカバーは、職員の手作りである。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドや家具の位置は、本人の要望を聞きながら安全に自立した生活が送れるように配慮している。一人ひとりの出来ることの把握、声掛け、見守りながら持っている能力を活かし自立して暮らせるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない